今週（3月4日から3月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズが強くレートは高水準での推移となったが、オファーサイドの運用額が若干増加した事から、レートは徐々に低下した。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、4日(月)が▲0.006%、5日(火)が▲0.007%、6日(水)が▲0.009%、7日(木)が▲0.011%と緩やかに低下する展開となったが、8日(金)は週末3日積みとなった事もあり、レートは下げ止まり、概ね横這い圏での推移となった。

ターム物に関しては、ショートタームでの出会いが中心となったが、O/N物のレート水準を反映し、▲0.009～▲0.001%近辺での出会いが散見された。また、3月末越えの取引では早期の利上げ観測もあり、プラス金利での取引も見られていた。

日銀当座預金残高は、税揚げ等により530兆円程度まで減少して始まり、6日(水)には10年債発行要因から一段と減少し528兆円台となった。その後は大きな変動がなく、本日は530兆円程度での着地が見込まれる。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、▲0.11～▲0.10%のレンジでの取引となった。市場参加者の姿勢に大きな変化は見られず、落ち着いた展開となった。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、マイナス金利政策の解除を織り込み、調整が進むマーケットとなった。

5日(火)に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。

7日(木)に実施された6M物入札は、マイナス金利政策の解除を織り込み、6M物の入札としては2014年11月5日以来のプラスレートでの決着となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。8日(金)に実施された3M物入札でも水準調整が行われたものの、セカンダリーは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、石油・鉄鋼・小売りなど複数の業態から大型発行が見られた。

市場残高は、2月末に一時的に27兆円を下回ったものの、3月入り後は早々に27兆円台を回復し、その後は引き続き高水準で推移している。

発行レートについては、政策変更を織り込む姿勢から、ロングターム物の案件に加えて日銀適格担保銘柄の3M以内の案件でも、レートの上昇・ばらつきが見られた。

7日(木)に行われたCP等買入オペは、事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート+0.032%、平均落札レート+0.057%と、前回（按分+0.011%、平均落札レート+0.030%）比で按分レート・平均落札レート共に上昇し、応札額は1兆円を超えた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/4 (月)	40,109.23	0.710	150.02	△ 0.006	△ 0.102	5,304,700
3/5 (火)	40,097.63	0.699	150.37	△ 0.007	△ 0.102	5,312,200
3/6 (水)	40,090.78	0.710	149.99	△ 0.009	△ 0.105	5,283,900
3/7 (木)	39,598.71	0.725	148.93	△ 0.011	△ 0.106	5,297,100
3/8 (金)	39,688.94	0.730	147.76	△ 0.010	△ 0.104	5,301,900

来週（3月11日から3月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/11 (月)	10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 2月のマネーストック(日銀 8:50)				
3/12 (火)	2月の企業物価指数(日銀 8:50) 1-3月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	5Y 25,000億円 3/13発行	エネルギー 対策借入 6,900億円 3/21借入		2月の米消費者物価指数 2月の米財政収支
3/13 (水)					
3/14 (木)		20Y 10,000億円 3/15発行			2月の米生産者物価指数 2月の米小売売上高 1月の米企業在庫
3/15 (金)	1月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 58,000億円 3/18発行			2月の米鉱工業生産・設備稼働率 3月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/11 (月)	400	▲ 1,500	▲ 1,100	国債買入 国債補完 CP買入	29,800 ▲ 100	13,000	42,700	41,600	TB3M発行▲58,000償還55,000 TB6M発行▲40,000償還40,000 10Y物価 償還3,100
3/12 (火)	500	▲ 1,000	▲ 500	CP買入		4,000	4,000	3,500	
3/13 (水)	▲ 500	▲ 25,000	▲ 25,500				0	▲ 25,500	源泉税揚げ、社会保障費払い 5Y発行▲25,000
3/14 (木)	500	1,000	1,500				0	1,500	
3/15 (金)	500	▲ 4,000	▲ 3,500				0	▲ 3,500	20Y発行▲12,000 個人向け3・5・10Y発行▲2,800 個人向け3・5・10Y償還1,100
週間合計	1,400	▲ 30,500	▲ 29,100	—	29,700	17,000	46,700	17,600	

3/11は日銀予想、3/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、積み期終盤となり引き続き▲0.01%近辺では資金調達ニーズの強い展開が見込まれる。債券レポ GC T/N物は、▲0.12～▲0.05%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、15日(金)に3M物の入札実施が予定されている。また、12日(火)に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、金融政策決定会合を控える中でレート水準がどの程度で推移するのが注目される。

主要なイベントは、国内では11日(月)に10-12月期のGDP 2次速報、12日(火)に2月の企業物価指数、1-3月期の法人企業景気予測調査季報、海外では、12日(火)に2月の米消費者物価指数、14日(木)に2月の米小売売上高などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入